

平成 30 年度山形県献血推進協議会議事録

1 開催日時 平成 31 年 3 月 4 日（月） 14:00～15:10

2 開催場所 県庁 10 階 1001 会議室

3 出席者

（1）委員（敬称略）

中目千之、細矢貴亮、鈴木浩幸、西村恵美子、鈴木薫、大泉享子、岩田雅史、上野岩雄、櫻井富士子、佐藤拓人、高橋久美子、長岡奈保子、五十嵐雪子、辻原吉子、加藤智江、半田直子、鈴木雅史、熊谷弘美

以上 18 名

（欠席委員 土田正剛、中村妙子、山川祐美子、山田敬子、石澤賢一）

（2）事務局 山形県健康福祉部：阿彦医療統括監、高橋薬務・感染症対策室長 他
山形県赤十字血液センター：渡辺所長、太田事業部長 他

4 会議概要

（1）開会（14:00）

（2）あいさつ（阿彦医療統括監）

- ・委員の皆様には、本県の保健医療の充実をはじめ、県民福祉の向上のため、日頃から格別の御支援と御協力をいただき心より感謝申し上げます。
- ・本県の献血状況につきましては、昨年度は 3 万 8 千人を超える方々から御協力をいただいている一方、10 代から 30 代の献血者数は 5 年間で約 35% も減少しており、若年層の献血者の確保が重要な課題となっている。
- ・県としては、市町村や赤十字血液センターとの連携を一層密にしながら、啓発事業を強化し、若年層をはじめとして、地域・企業の皆様に献血への理解を深めていただけるよう努めていく。
- ・本日の会議では、「平成 31 年度山形県献血推進計画（案）」について、御審議いただくことにしている。それぞれの立場から忌憚のない御意見をお願い申し上げますとともに、今後とも本県の血液事業に対するお力添えをお願い申し上げます。

（3）委員紹介

（4）会長選出

委員の互選により、中目委員を会長に選出
会長あいさつ

- ・現在の医療現場において、血液製剤は不可欠なものであり、献血者の確保や血液製剤の安定供給は重要な課題となっている。
- ・本日の会議では、知事の諮問を受け、来年度に確保すべき献血目標及びその目標達成に向けた施策を定める「平成 31 年度山形県献血推進計画（案）」につい

て、審議する。

- ・委員の皆様方には、それぞれの視点から活発な御討議をお願いするとともに、議事の円滑な進行への御協力をお願いする。

(5) 協議

① 報告事項

ア 事務局（健康福祉企画課）

資料「血液事業の実施状況について」に基づき報告

イ 事務局（山形県赤十字血液センター（以下「血液センター」））

資料「平成30年度 血液事業の実施概要」に基づき報告

<質問・意見等>

○中目会長

血液センター「血液事業の概要」3ページ5移動採血バスの配車実績について、イオンモール三川の実施回数が多いのはなぜか。また、陸上自衛隊での献血協力者は、全体の何%か。

○事務局（血液センター）

イオンモール三川では、毎月バスを配車しているため回数が多くなっている。定点献血は、事業所の意向や地域との兼ね合いから実施回数を決めている。

陸上自衛隊では、1回につき平均50～60人から協力いただいている。実施日に大きな訓練がなければ多くの隊員に御協力いただいている状況である。

○上野委員

（ライオンズクラブでは、献血一万人運動を実施しており、）平成31年1月現在で昨年度と同程度の7,000人弱から御協力いただいている。目標とする一万人を達成できると考えているが、冬期間は献血者が減少することから、年度末に向けてさらに献血啓発を行う。

○辻原委員

血液センター「血液事業の実施概要」4ページからの献血普及キャンペーン実績について、良かった点・悪かった点はどこか。また、学生ボランティアとして、看護学校の協力校を増やせるのではないか。

○事務局（血液センター）

良いものとして「Twin献血」が挙げられる。2名以上で若年層の方と共に献血ルームにお越しいただいた方に記念品を差し上げるイベントで、複数回献血者の確保や若年層への普及に役立った。その他には、10代を対

象とした「卒業・進級キャンペーン」も好評だった。

看護学校への普及については、医療に対する関心の高さもあると考えられるので、さらに協力をいただけるようお願いしていきたい。

○西村委員

やまがた健康フェアには、2日間で2万人の来場者があると聞いている。献血啓発の場として検討してはどうか。

10～30代の献血希望者について、献血基準への到達はいかがか。

○事務局（血液センター）

やまがた健康フェアについては、参加する方向で検討したい。

若年層の献血については、高校生女子や一人暮らしの大学生においてヘモグロビンの値が基準に達せず、献血できないケースが多い。

② 諮問事項

平成31年度山形県献血推進計画（案）について

事務局（健康福祉企画課）

資料「平成31年度山形県献血推進計画（案）」に基づき説明

事務局（血液センター）

資料「平成31年度事業計画」に基づき説明

審議の結果、（案）のとおり承認された。

<質問・意見等>

○上野委員

移動採血バス1台あたり45人の献血者を確保するとあるが、45人に満たない場合は、バスは配車されないのか。また、土日でもバスは配車してもらえるのか。

○事務局（血液センター）

目標として1台45人である旨お知らせしている。土日の配車については、事業者最優先で考えており、事前訪問等で打ち合わせさせていただいて個別に対応している。

○長岡委員

高校の現場では、以前は30～40人が200mL献血を希望し、生徒は献血に対して理解を深めることができた。現在は、1校あたり原則5名までと制限されている。学校現場は5名を選ぶことが難しく、200mLの枠をもう少し増やしてほしい。

○事務局（血液センター）

実際に血液を使用する医療機関からの要望は、400mL がほとんどであるが、200mL が全くないわけではない。事業者に対しては、原則 400mL 献血をお願いしており、可能な限り高校で 200mL 献血ができるよう対応している。

（6）閉会（15:10）